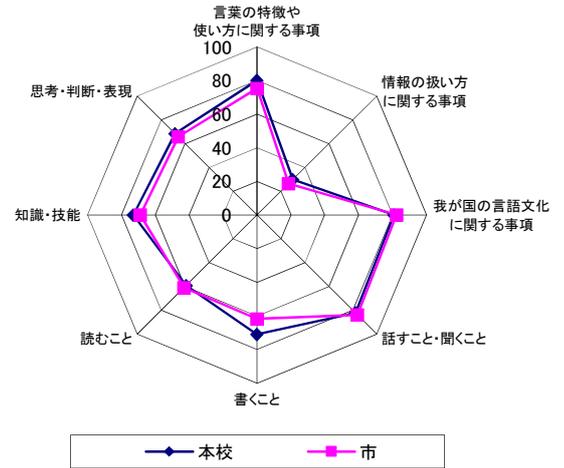


# 宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	80.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	29.8	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	80.9	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	82.3	83.9	84.2
	書くこと	70.9	61.7	64.5
	読むこと	59.2	60.9	61.0
観点別	知識・技能	72.9	68.8	70.3
	思考・判断・表現	68.5	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

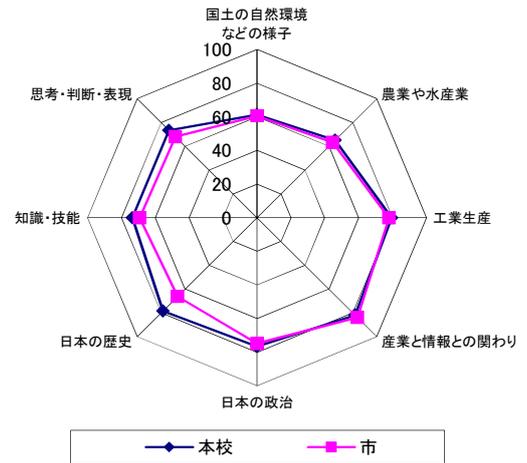
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>校内正答率は80.1%で、市より4.8ポイント高い。</p> <p>○漢字を読む、書く問題の正答率は、6問中4問で市を上回っている。</p> <p>○文と文との接続の関係を理解している問題の正答率は78.7%で、市より10.0ポイント高い。</p> <p>●文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている問題の正答率は78.7%で、市より4.8ポイント低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字を読む、書くの学習については、今後もドリル等で繰り返し学習するよう継続して指導し、定期的に漢字テストを実施することで定着を図る。</p> <p>・文脈に沿った漢字を適切に使えるようにするため、短文づくりや感想文を書く活動をするなど、日常的に学習を積み重ねていくようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>校内正答率は29.8%で、市より3.3ポイント高い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している問題の正答率は12.8%で、市より4.4ポイント低い。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている問題の正答率は46.8%で、市より11.0ポイント高い。</p>	<p>・今後も、目的に合わせて情報を収集し、資料を関連付けながら読み取る活動を行ったり、読み取ったことをもとに考えを深めたりする活動を行ったりすることで、思考力を高めていく。</p> <p>・他教科でも情報を関連させて考えたり、情報を整理したりする活動を丁寧に扱い、指導を継続していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>校内正答率は80.9%で、市より1.5ポイント低い。</p> <p>●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している問題の正答率は80.9%で、市より1.5ポイント低い。</p>	<p>・漢字の学習では、新出漢字を読んだり書いたりする学習に留まらず、成り立ちや漢字のつくり、意味など、言語に対する理解を深めていけるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>校内正答率は82.3%で、市より1.6ポイント低い。</p> <p>○話の内容を捉える問題の正答率は87.2%で市より3.4ポイント高く、意図に応じて質問を工夫する問題の正答率は89.4%で、市を0.4ポイント上回っていた。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率は70.9%であり、市を8.7ポイント下回っていた。</p>	<p>・自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるようになるために、聞き取ったことを端的にメモをすることをアドバイスするとともに、メモをする前に聞き取る観点を書いておくことを指導し、実践を通して身に付けさせるようにする。</p>
書くこと	<p>校内正答率は70.9%で、市より9.2ポイント高い。</p> <p>○自分の意見とその理由を明確にして書いている問題の正答率は91.5%で、市よりも7.2ポイント高い。</p> <p>●予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率は、市より14.0ポイント高いものの57.4%であった。</p>	<p>・今後も、自分の意見と、予想される反対意見を自分自身で想定して書けるような題材を提示し、作文に書く機会を作る。</p> <p>・筋の通った意見文になっているか見分ける目を育てるために、互いに書いた作文を読み合う機会を設け、作文の筋が通っているか、改善点はどこかを考えさせるなど作文指導を充実させていく。</p>
読むこと	<p>校内正答率は59.2%で、市より1.7ポイント低い。</p> <p>●登場人物の様子について、描写を基に捉える問題の正答率は55.3%で、市よりも8.2ポイント低い。</p> <p>●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題の正答率が12.8%で、市よりも4.8ポイント低い。</p>	<p>・物語文の学習では、重要な語句について話し合ったり、サイドラインを引いたりなどの作業を通し、本文の叙述に即して読むことで、登場人物の様子や気持ちを読み取らせる。</p> <p>・説明文の学習については、本文を読み取るときに情報と情報との関係について構造図をかくなどして、文章の情報を整理していくようにさせる。</p>

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.3	60.5	65.8
	農業や水産業	65.2	63.3	66.0
	工業生産	79.4	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	81.9	83.8	76.6
	日本の政治	76.6	74.9	74.1
	日本の歴史	78.5	66.3	68.3
観点別	知識・技能	73.5	69.3	71.4
	思考・判断・表現	73.6	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

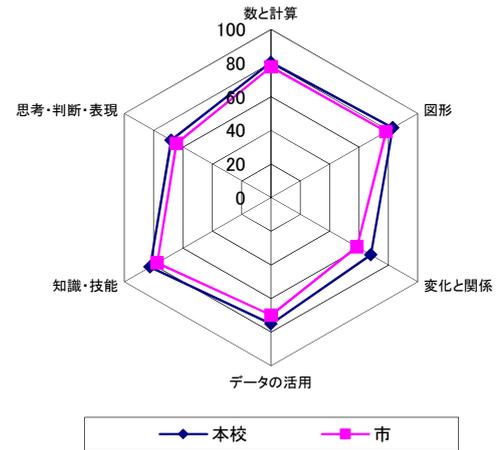
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>校内正答率は61.3%で、市より0.8ポイント高い。</p> <p>○森林を守るための間伐について答える問題の正答率は、市より4.5ポイント高い。</p> <p>●海洋に囲まれた多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現する問題の正答率は、市より2.3ポイント低い。</p>	<p>・地図帳や地球儀、ICT機器を活用し日本の主な地形の名称や位置について理解させたり、ワークシートを活用したりするなどして知識の定着を図る。</p>
農業や水産業	<p>校内正答率は65.2%で、市より1.9ポイント高い。</p> <p>○輸入などの外国との関わりにおける課題について考える問題の正答率は、市より11.5ポイント高い。</p> <p>●日本の主な食料の自給率について理解しているか問う問題では市より4.4ポイント低い。</p>	<p>・資料を読み取ったり資料をもとに考察したりする力を育てるために、資料から読み取れることを話し合ったり、資料をもとに自分の考えを説明したりまとめたりする活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・日本の食糧生産に関する地図や資料を読み取る活動を取り入れる。</p>
工業生産	<p>校内正答率は79.4%で、市より1.5ポイント高い。</p> <p>○自動車の部品を再利用する目的について理解しているか問う問題の正答率は、市より2.5ポイント高い。</p> <p>○日本の主な輸出品・輸入品について理解しているか問う問題の正答率は、市より3.1ポイント高い。</p>	<p>・資料から情報を読み取り、整理し、必要な事柄を抜き出す活動や資料から読み取れることを話し合ったり説明し合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>・グラフや表の読み取り方を復習するとともに、読み取った情報を活用したり表現したりする活動を取り入れる。</p>
産業と情報との関わり	<p>校内正答率は81.9%で、市より1.9ポイント低い。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率は、市より5.0ポイント高い。</p> <p>●産業における情報活用の状況について考える問題の正答率は、市より8.8ポイント低い。</p>	<p>・情報化社会における正しい情報の発信と受信について指導していく。</p> <p>・産業における情報の活用方法について具体的な場面や資料をもとに説明する。</p>
日本の政治	<p>校内正答率は76.6%で、市より1.7ポイント高い。</p> <p>○議会政治について、資料をもとに考え、表現する問題の正答率は、市より10.8ポイント高い。</p> <p>●租税の役割について、資料から読み取る問題の正答率は、市の平均より7.7ポイント低い。</p>	<p>・租税教室を実施し、租税の役割や仕組み、使われ方などについて理解を深められるようにする。また、資料から読み取ったことを話し合ったり、まとめたりする活動を取り入れる。</p>
日本の歴史	<p>校内正答率は78.5%で、市より12.2ポイント高い。</p> <p>○雪舟について理解しているか問う問題の正答率は、市の平均より16.6ポイント高い。</p> <p>○豊臣秀吉の業績について理解しているか問う問題の正答率は、市より15.4ポイント高い。</p>	<p>・それぞれの時代の特徴や時代のつながりを押さえられるよう、時代を代表する歴史事象や人物の業績について調べたことを、年表や図表、新聞などにまとめる活動を取り入れる。</p>

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.5	77.7	78.6
	図形	83.0	78.4	74.4
	変化と関係	68.1	58.7	53.0
	データの活用	75.2	69.9	57.2
観点別	知識・技能	82.3	77.5	74.0
	思考・判断・表現	68.1	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

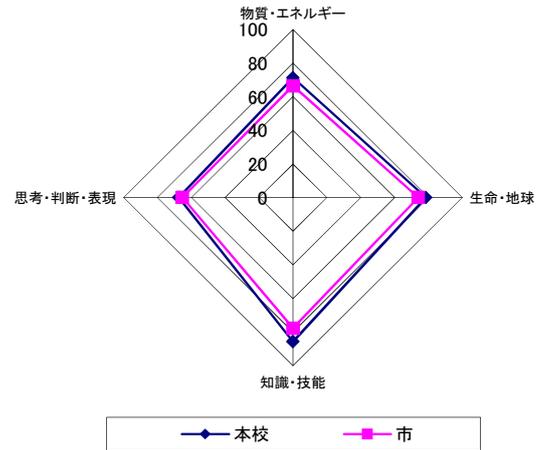
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内正答率は80.5%で、市よりも2.8ポイント高い。</p> <p>○文字を使った式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率が市より11.5ポイント高い。</p> <p>○分数や小数のかけ算やわり算の基本的な計算問題の正答率が市より約3.0ポイントほど高く、基礎的な計算の力が身に付いている。</p> <p>●基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める問題の正答率が市よりも4.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算の力は定着しつつある。今後もドリル等を活用して宿題や朝の学習等で継続的に指導していく。</li> <li>・普段の授業で数直線を使って問題を解くように意識して指導し、比較量や基準量の求め方について考えさせていく。ペアやグループで学び合いながら考えを定着させるよう指導していく。</li> <li>・少人数指導や習熟度別の学習を通して友達との関わり合いや個別での指導を大切にしていく。</li> </ul>
図形	<p>校内正答率は83.0%で、市よりも4.6ポイント高い。</p> <p>○ひし形の面積を求める式を理解しているか問う問題の正答率は93.6%で、市よりも17.8ポイント高い。</p> <p>●正方形の紙を二つ折りにし、切った後、開いてできる模様を求める問題での正答率が87.2%で、市より3.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、少人数指導の充実や、ICT機器や模型などの活用を通して、丁寧な指導を行う。</li> <li>・実際に行う作業やグループでの学習などを充実させ、体験から学べるような指導を工夫していく。</li> </ul>
変化と関係	<p>校内正答率は68.1%で、市よりも9.4ポイント高い。</p> <p>○百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題の正答率は85.1%で、市よりも18.2ポイント高い。</p> <p>●表から面積と人数の割合を求め、どのグループが最も混んでいるかを考察する問題の正答率は53.2%で、市よりも1.7ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位量あたりの大きさで、割合を求める場合は、何が基準量なのかということや、どちらが混んでいるかなどの判断の仕方を考えられるよう指導していく。</li> <li>・速さの単位の関係を理解し、秒速・分速・時速に変換できるよう指導していく。</li> </ul>
データの活用	<p>校内正答率は75.2%で、市よりも5.3ポイント高い。</p> <p>○表から平均を求める問題の正答率は91.5%で市よりも5.7ポイント高い。</p> <p>○ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題の正答率は85.1%で、市よりも14.2ポイント高い。</p> <p>●度数分布表を完成させる問題の正答率は74.5%で、市よりも2.8ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が調べたい事柄のためには、どんなデータが必要かを考えたり、身の回りのデータを多面的に読み取ったりできるようにする。</li> <li>・読み取ったデータからどんなことが分かるのかを自分の言葉で表現できるように、普段の授業で自分の考えを説明し合う機会を増やしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.3	66.5	66.3
	生命・地球	78.4	74.0	72.6
観点別	知識・技能	85.6	77.6	78.2
	思考・判断・表現	67.5	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>校内正答率は71.3%で、市より4.8ポイント高い。</p> <p>○物の溶け方の実験に関する問題の正答率は80.9%で、市より6.0ポイント高い。</p> <p>○実験結果から水溶液を特定する問題の正答率は76.6%で、市より9.2ポイント高い。</p> <p>●未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する問題の正答率は29.8%で、市より3.0ポイント低い。</p>	<p>・今後も、実験を行う際は、正しい方法で全員が実験を行うことができるようにする。また、実験結果からより妥当な考えをもてるよう支援していく。</p> <p>・フローチャートを使って、見通しをもって実験を進めたり、実験と実験を繋げて考えたりできるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>校内正答率は78.4%で、市より4.4ポイント高い。</p> <p>○台風の発生と進路についての問題での正答率は、95.7%で、市より17.1ポイント高い。</p> <p>○何を太陽と月と地球に見立てているかを問う問題では、正答率は100%で、市より6.1ポイント高い。</p> <p>●台風が上陸しやすい時期をもとに、ダムの水位を減らす時期を推測する問題では、正答率は55.3%で、市より5.4ポイント低い。</p>	<p>・社会の学習と関連させながら、さらに理解が深まるよう指導していく。</p> <p>・実験を全員が行うことで、実感を伴って理解した結果と考えられるので、今後もモデル実験や観察を丁寧に行い、知識の定着を図る。</p> <p>・身に付けた複数の知識を、条件に合わせて活用することができるように、授業の中で学習したことや思考を可視化できるように工夫する。</p>

## 宇都宮市立上河内中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の習得	朝の学習の時間を活用して「上央小算数検定」を実施したり、AIドリル等のドリル教材を行ったりして、基礎的な学力の定着を図っている。また、4年生以上は算数科において習熟度別学習や少人数指導を実施し、個に応じた指導を行っている。	6年生の学力調査の「知識・技能」の結果を見ると、すべての教科で市の平均を4.0ポイント以上、上回った。「思考・判断・表現」の結果においても、すべての教科で市の平均を2.0ポイント以上、上回った。
学び合う活動の充実	全教職員で「上央小授業スタンダード」を確認し、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業を展開する。課題解決の場面では、ペアやグループ学習など意図的な交流の場を設定し、学び合う活動を充実させるようにしている。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合が、どの学年も80%以上で、全学年で市の平均を上回った。特に、5年生は7.7ポイント、6年生は11.3ポイントと大きく上回った。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた継続した取組により、基本的な学力は身に付いてきている。しかし、国・県の調査においては、語彙力・読解力が低く、教材文や設問を正しく理解する力や、資料を読み取る力に課題が見られたので、読書活動を充実させ、朝の読書の時間などに、学年お勤めの本を読み、まとまった文章を読む習慣を身に付けさせるようにする。読書の習慣が身に付くよう、家庭とも連携を図っていくようにする。

また、県の調査においては、記述式の設問で、無回答や条件を満たしていない記述が目立ち、自分の考えを根拠をもとに説明したり記述したりすることが苦手である傾向が見られた。そこで、自分の考えを根拠を明確にして伝えたり、自分の考えをもって話し合い活動に参加したりできる児童を育成するための指導方法を研究していくようにする。